

～輝きの子育て～

大好き！が伝わる ほめ方*叱り方

「ありがとう」は最高のほめ言葉。

人間にとって最も大切な、自己肯定感をダイレクトに育てる言葉です。

「いいところも 悪いところも、みんな受け入れられ、愛されている」これ1つ伝われば、

子どもは輝く！

泣いたり怒ったり、手のかかる子は
とってもいい子です。

子育てとは、今の子どもの中に

すでにある、いいところ、がんばっているところ を見つけて、伸ばしていくことです。

「叱る」とは 子どもに腹を立てることではありません。

子どもが、自分も他人も 大切にできるように、1つずつ教えていくことです。

子育ては、一人の人間を育てるといって、りっぱな仕事です。

そんな大切な仕事をしているという、自信と誇りをぜひ持っていてください。

子どもは、言っても言っても 同じ失敗をするものです。

子どもを まるごとほめる。

「大好きよ」「どんなことがあっても、お母さんは味方だよ」「やっぱりうちの子がいちばん！」「生まれてきてくれて ありがとう」

できて当たり前ではなく、まだ子どもなんだから
できなくて当たり前、と見ていきましょう。

比較するなら、**以前のその子と。**

非を認めさせようと、徹底的に追い詰めるのではなく、いったん、その子の

言い分を認めましょう。

すぐに泣く子は、人一倍、感受性が豊かで、敏感な、**優しい子**です。

できていない ところよりも、

できているところ に注目する。

お父さんに ほめてもらうと、

友達関係や、学校、社会に出ていくときの勇気になります。

叱るときは、

子どもを止めて、目を見て、短い言葉で。

けっこういい親 やってるよ。子どももちゃんと育てているよ。

毎日見ていると、気づかないかも しれないけれど。

それは、**本当に叱るべきこと**でしょうか？

完璧なんてできません。

子どもが生まれたときは、親も1年生。お互い失敗しながら 成長していくのです。

時には、**「失敗をほめる」**。大人の期待にこたえなきゃならない、と気を張り詰めて、疲れがたまっていたのが、ほっとした表情に変わります。

大人の都合で、あまりにも叱りすぎると、

子どもの自立心を 奪ってしまいます。

注意するときは、

認める言葉も 必ず添えて。

片野 英子

日めくりカレンダー

大好き！が伝わる ほめ方・しかり方

1万年堂出版 明橋 大二 より引用